

## フォレストの桜って何桜？

1月末から2月初めにかけて見頃を迎えるフォレストボリスの桜ですが、三種類の桜があるのを御存知ですか？以下の桜の特徴を参考にそれぞれの桜を楽しませて下さい。

### ①緋寒桜（ヒカンザクラ）

※一般的なイメージの桜とは少し形が違い、釣鐘状の花で、ピンクが濃く、見た目が梅の花に似ています。これは名前の通りで、寒い時期に緋色に染まる花をつけることから名づけられました。現在では寒緋桜と呼ばれることも増えてきましたがどちらも意味は変わりません。



### ②河津桜（カワツザクラ）

※原木が静岡県賀茂郡河津町の河津川沿いで発見された為、河津桜と命名されました大島桜・緋寒桜の自然交雑種で、花の色は桃色ないし淡紅色で、ソメイヨシノよりも桃色の濃い色をしています。



### ③大島桜（オオシマザクラ）

※7cm程度で縁が細かく尖った葉をもっています。桜餅に使用される葉です。花が真っ白な花が特徴的で一つ一つの花が大きく、芳香も強いです。



## 信ちゃん館長のツイート

～日本史を変える史実が大和村にある～

「元寇」は、鎌倉時代中期にモンゴル帝国と高麗の連合軍が2度にわたる日本への侵攻で、一度目を文永の役(1274年)、二度目を弘安の役(1281年)と言い、どちらも強風や台風に遭い、連合軍は引き揚げて日本が占領されることはなかった、と習ったと思います。

“奄美の開拓王”田畑佐文仁が、原始林を耕地に造成し「福元村」と改めました。その福元(大和村名音深山塔)の開拓中に貴重な石碑を掘り出しましたが、碑の文字は古代文字らしく、古の大和人が航海安全を祈願したものではないかとの説もありますが、長く謎とされてきました。

その石碑について、郷土研究家の田畑久守氏が、『奄美深山(みやま)塔碑考～南島の元寇～』にその研究を発表しました。その内容を要約して紹介します。

◆大和村福元の深山塔から出た石碑の難解な文字はウィグル文字、西夏文字であることを解明した。※西夏(or大夏)は現在の中国西北部で、モンゴル帝国のチンギス・ハンによって1277年に滅ぼされた。

◆元軍の艦船には常に「≡」の大旆(はた)が見られ、それは深山塔の石碑に刻まれているものと同じである。また、「沖縄線刻板」にも「≡」らしき大旆が刻まれている。さらに、「徳之島海戦線刻碑」には蒙古相撲の絵と元の大旆である「天」、「上」の二文字が記されている。そして、モンゴル(蒙古)出身のカ士旭鷲山の化粧まわしにも「乾 ≡」が大きく書かれている。

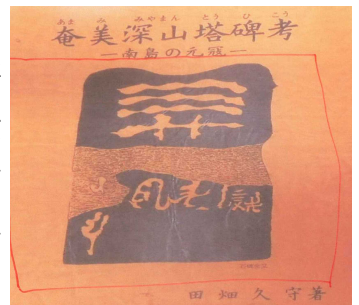
◆チベット民謡『鳥葬の歌』は奄美で歌われている『行きゅんにゃ加那節』のメロディーと酷似していて、現在もチベットで歌われている。

◆史実と照合すると、石碑のそれは元の史書にある1283年(至元20年)のことで、この年に元軍が奄美に上陸し、その記念に建てたものであろうとの見解が出された。それは元寇が3回以上あったことを証している。

◆日本史では、2回の役を元寇とし、第3回の弘安6年の役を元寇として取り上げなかったのは

『元史』に記録があるものの、日本における戦闘地が不明だったためだと考えられます。私たちの奄美大島の大昔は“絶海の孤島だった”のでは決してなく、大和人や琉球人を始め中国や大陸の人々さらにはそれら以外の諸外国の人々も行き交っていたという証の一つになったと思います。

※右の写真が発見された石碑拓本です



## 大和村中央公民館からのお知らせ

〇令和2年度の公民館講座の合同閉講式は、島内でのコロナ感染者の発生に伴い中止することと決定いたしました。

〇公民館は来年度令和3年に、村民の希望する図書(本)を購入する計画をしております。

こんな本が読みたい等、ご希望がありましたら中央公民館までご連絡下さい。

## 懐かし一枚

昭和38年頃(今里集落)

～ノロ・オムケ祭り～  
現在の集落外れにある墓地前の道を、海岸に向かい歩く様子、浜にてオムケ祭りをとりおこなう一同の写真です。

